

## 経緯

- 2018年夏以降の風しんの感染拡大を受け、過去に公的に予防接種を受ける機会がなかった世代の男性を対象として、3年間、全国で抗体検査と予防接種法に基づく定期接種を実施することとした。
- 一方、新型コロナウイルス感染症に伴う受診控え、健診の実施時期の見直し等の様々な影響により、当初の見込みどおりには進んでいない。
- 今後の風しんの流行を防止するために、当初目標まで抗体保有率を引き上げる必要があるため、目標の到達時期を延長し、引き続き、追加的対策を実施する。

## 目標

【対象】 **昭和37年4月2日～昭和54年4月1日生まれの男性**

- 【目標】 (1) **2021年7月まで**に、対象世代の男性の**抗体保有率を85%**に引き上げる。  
(2) **2021年度末まで**に、対象世代の男性の**抗体保有率を90%**に引き上げる。

【対象】 **昭和37年4月2日～昭和54年4月1日生まれの男性**

- 【目標】 (1) **2022年12月まで**に、対象世代の男性の**抗体保有率を85%**に引き上げる。  
(2) **2024年度末まで**に、対象世代の男性の**抗体保有率を90%**に引き上げる。

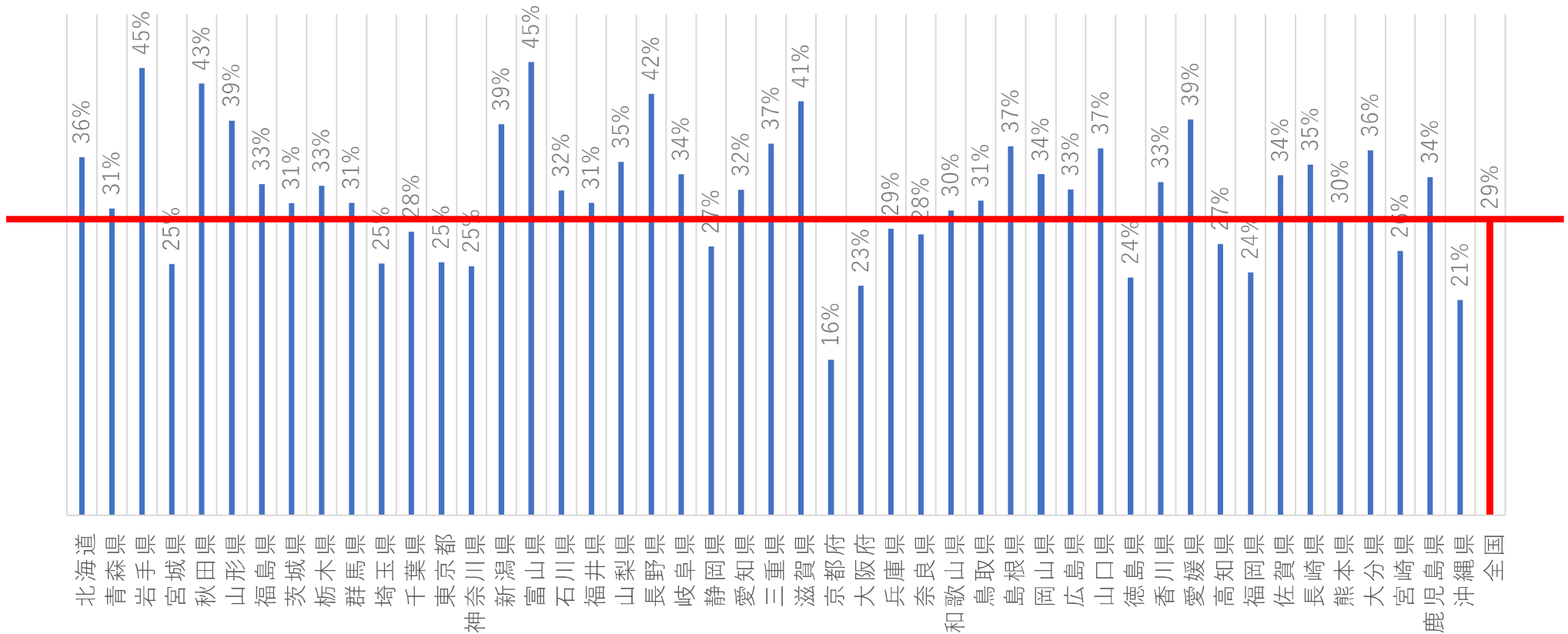
## 促進策

風しんの追加的対策の実施時期の延長に伴い、主に以下の促進策を実施している。

- ①健診に合わせた抗体検査を促進する観点から、毎年、抗体検査未受検の対象者全員にクーポンを一斉送付する。  
(令和元年度～令和3年度は対象世代を分割し、クーポン券を送付していた。)
  - ②新型コロナワクチンの接種を行う医療機関や大規模接種会場において、ポスター、リーフレットを用いて啓発するとともに、新型コロナワクチンの職域接種を実施する会場に対しても周知・協力依頼を行う。
  - ③対象者の利便性の向上を図る観点から、即日、抗体検査の結果が判明する検査キットを導入する。
- ※ ただし、偽陽性を含むIgM陽性の場合の風しんの診断が必要となることに留意するとともに、IgG陰性だった場合にワクチン接種につなげるために、当該検査キットを用いる場合は、検査日に風しんの診断やワクチン接種が実施可能な体制を求めることとし、限定的に導入することとする。

# 抗体検査数の累積件数と実施率

- 抗体検査のクーポン券使用実績は、令和元年度は1,245,330件、令和2年度は1,769,990件、令和3年度は847,962件、令和4年度は531,596件。令和5年度は5月までに98,901件。令和元年6月～令和5年5月までの合計は4,493,779件となっている。
- 都道府県別では上位が富山県、岩手県、秋田県だった。



R 1.6月～R 5.5月	4,493,779 件
---------------	-------------

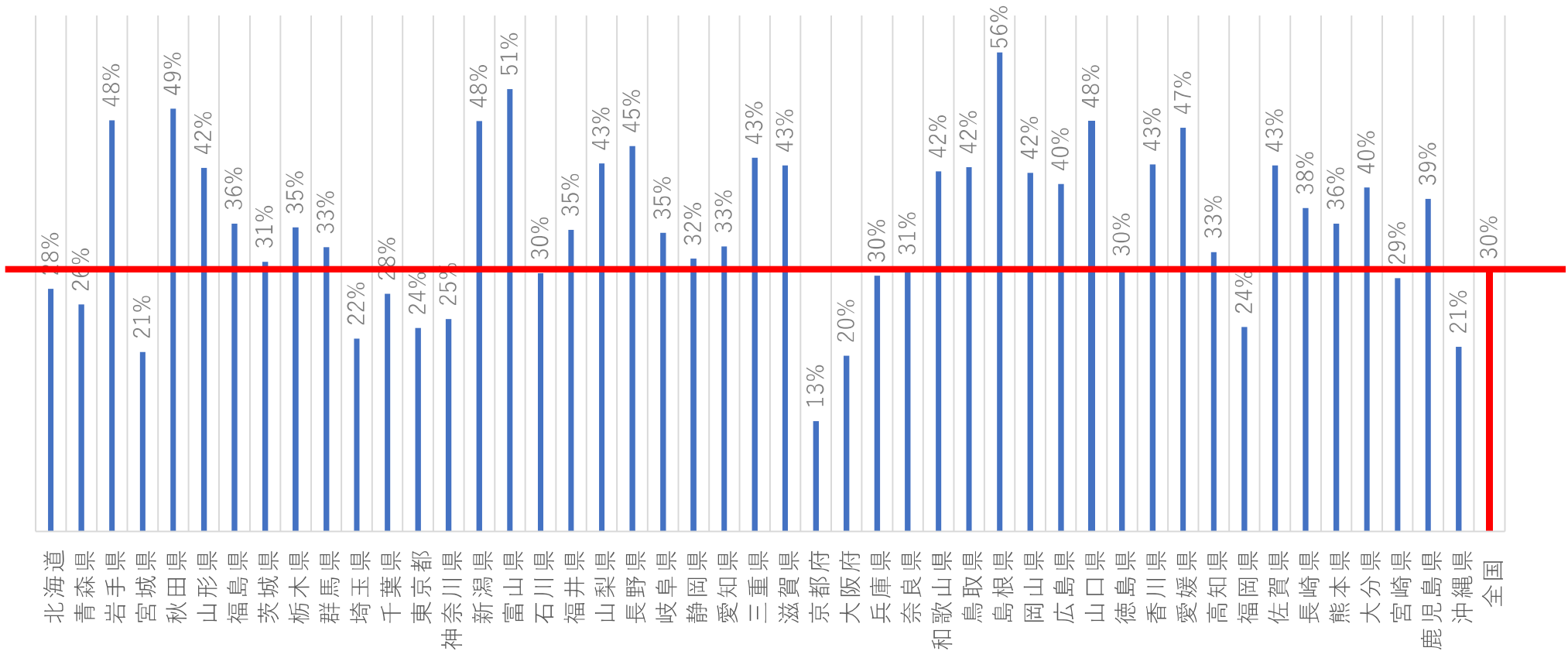
R 5年6月時点

抗体検査の実施率 = 抗体検査のクーポン券使用実績 / 対象者人口  
 対象者人口：約1,534万人

# 予防接種の累積件数と実施率（推計）

R3.12.17、第46回厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会予防接種基本方針部会・第57回厚生科学審議会感染症部会（合同開催）、資料2-1 更新

- 予防接種のクーポン券使用実績は令和元年度は270,113件、令和2年度は359,312件、令和3年度は200,419件、令和4年度は121,390件、令和5年度は5月までに21,572件。令和元年6月～令和5年5月までの合計は972,806件となっている。
- 都道府県別では上位が島根県、富山県、秋田県だった。



R 1.6月～R 5.5月	972,806 件
---------------	-----------

予防接種の実施率（推計） = 予防接種の実績数 / 対象者人口 × 21% ※ 1

R 5年6月時点

対象者人口 = 約1,534万人

※ 1 21% = 対象世代の2017年抗体保有率から推計される陰性の割合の全国平均値